

# 寄合い(ワークショップ)開催報告

# 寄合い開催報告

# 1 「集落元気づくり」のための寄合い(ワークショップ)の開催概要

平成21年8月中旬から12月中旬にかけて、宮崎県臼杵郡椎葉村及び鹿児島県大島郡瀬戸内町にて集落基礎調査および「集落元気づくり」ための寄合い(2回)を開催した。

## 「集落元気づくり」のための事前基礎調査

集落の現況を把握するための住民・他出者基礎調査(お盆・旧盆)

H21年8月13日～14日 瀧春山集落(椎葉村) 住民13名 世帯数7世帯 他出14名

H21年9月2日～4日 阿多地集落(瀬戸内町) 住民5名 世帯数5世帯 他出5名

H21年9月2日～4日 知之浦集落(瀬戸内町) 住民12名 世帯数6世帯 他出6名



活用する資源・解消する不安の設定(枯れた松の植え換え)

## 第1回寄合い 現状の問題を見てみよう

世帯毎の家族構成・後継者(他出者含む)や集落の資源を把握することで集落の現状を共有

平成21年10月13日 瀧春山集落(椎葉村) 住民7名6世帯 他出1名 周辺集落1名

平成21年10月17日 阿多地集落(瀬戸内町) 住民7名6世帯 他出3名

平成21年10月18日 知之浦集落(瀬戸内町) 住民10名7世帯 他出6名 周辺集落3名



支援者も含め取組の内容・方法の話し合い

## 平成21年12月上旬から中旬にかけて開催

## 第2回寄合い 集落の将来について考えてみよう

将来の集落の姿を考え、集落の問題・課題の抽出と取組の話し合い

平成21年12月7日(月) 瀧春山集落(椎葉村) 住民7名6世帯 周辺集落1名

平成21年12月12日(土) 知之浦集落(瀬戸内町) 住民6名5世帯 他出者5名 周辺集落1名

平成21年12月13日(日) 阿多地集落(瀬戸内町) 住民5名4世帯 他出者3名



「集落元気づくり」の実践

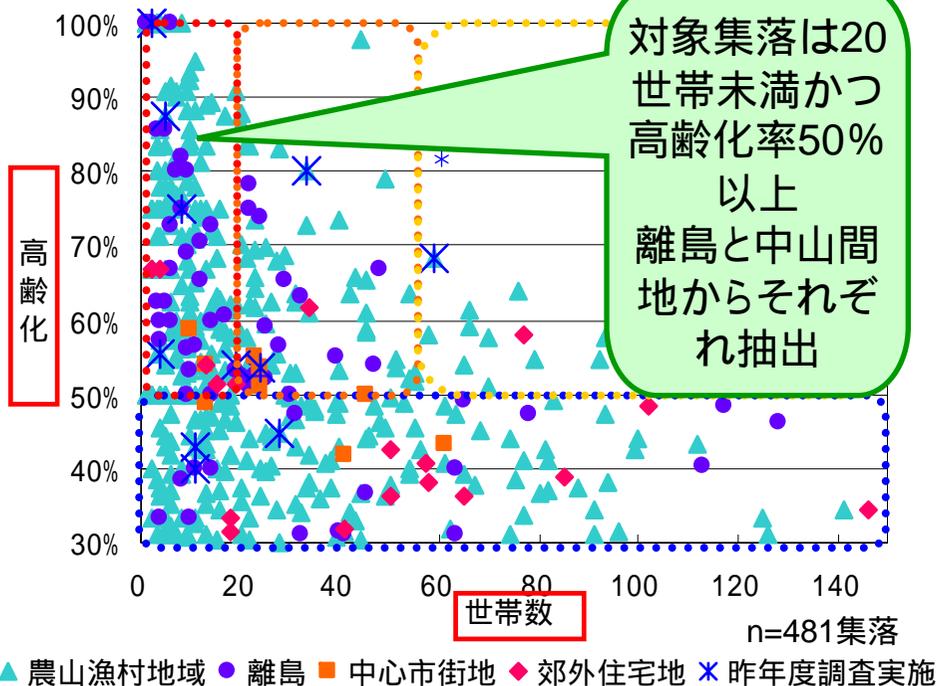
「集落元気づくり」とは、集落の暮らしにおける不安解消・資源活用を図るため、寄合い(ワークショップ)とその取組を呼ぶ

## 2 「集落元気づくり」のための寄合い

### 寄合い対象集落の抽出（第1回検討委員会）

#### 対象集落の抽出

世帯規模・高齢化実態から、厳しい条件にある集落を中山間地及び離島から3集落を抽出。（第1回委員会）



自治体実感  
存続が危ぶまれる集落  
(平成19年度アンケート調査)

客観的指標  
高齢化率: 概ね30%以上  
世帯数: 概ね150世帯以下

典型的な  
小規模・高齢化集落  
(アンケート調査対象集落)  
481集落(135自治体)

#### 結果

「集落元気づくり」を実現する上で、厳しい条件(小規模、高齢化、「集落元気づくり」への取組意向がない、生活中心都市までの時間距離が30分以上)である集落を選定した。

#### 課題等

集落人口が少なく、かつ高齢化も進んでいる集落であることから、「集落元気づくり」を担う人材が少ないことが想定され、外部支援を前提としたきっかけづくりが必要である。外部支援の可能性把握のため、他出者の状況も把握するための基礎調査が必要である。平成20年度調査で行った集落代表者アンケートにおける結果が住民全体の意向であるのか？小規模集落であるだけに集落全員の意向把握を行う必要がある。

# 1 寄合い(ワークショップ)の開催対象集落の概要

## 寄合い対象集落の概要

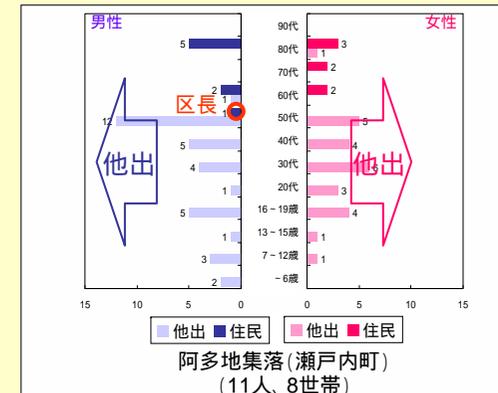
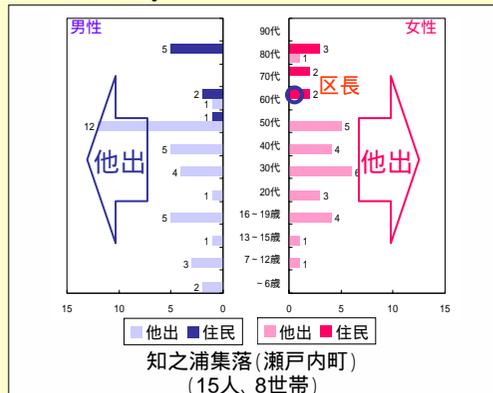
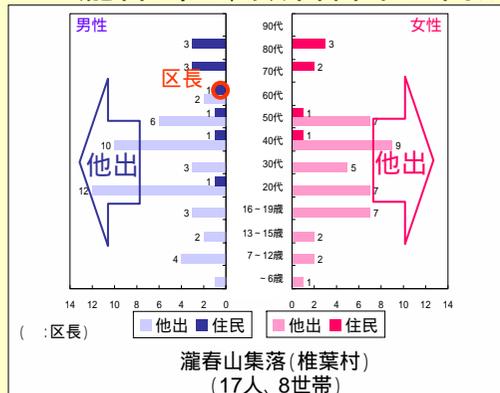
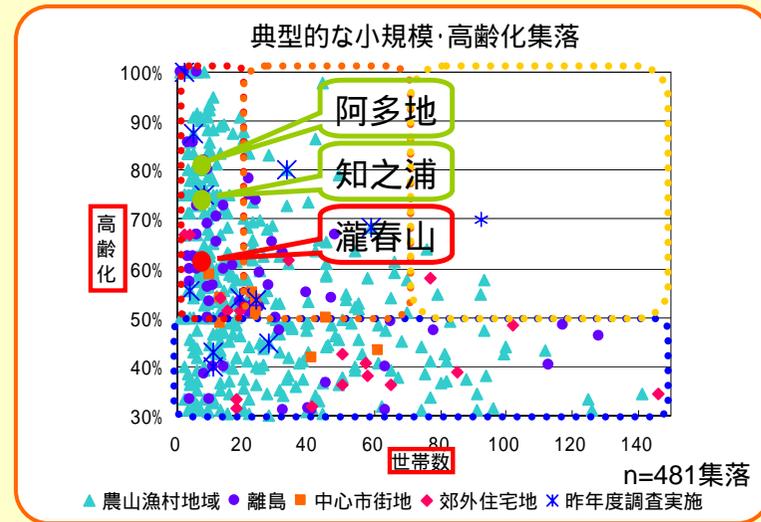
### 対象集落の位置付け

世帯規模・高齢化実態から、「集落元気づくり」への取組において、外部からの支援が必要であると思われる、**特に厳しい条件にある集落を中山間地及び離島から3集落を抽出した。**(第1回委員会)

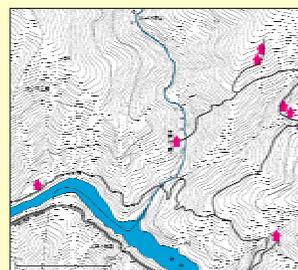
### 対象集落の人口構成

いずれの集落においても、**区長が50～60歳であり、集落人口の最年少の年代にあり、若年世帯の多くが他出している。**

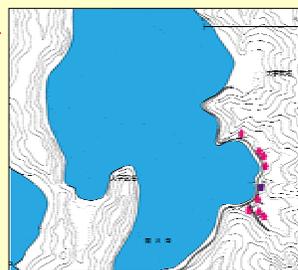
瀧春山は、数名若年世代が居住していた。



### 対象集落の地形



瀧春山集落(椎葉村)  
(散居型)  
役場までの時間距離: 50分  
居住者の集会所までの歩行時間: 最長30分



知之浦集落(瀬戸内町)  
(密集型)  
役場までの時間距離: 30分  
居住者の集会所までの歩行時間: 最長5分



阿多地集落(瀬戸内町)  
(密集型)  
役場までの時間距離: 60分  
居住者の集会所までの歩行時間: 最長5分

## 2 「集落元気づくり」のための寄合い

### 【第0段階】事前準備（参加の場の創出）（その1）

#### 対象集落の基礎調査

集落の実態や住民意向や「集落元気づくり」の担い手（キーマン）を把握するための基礎調査を行った。



全住民及びお墓参り等で帰省した他出者へアンケート調査を依頼（今回の事前調査は、他出者の帰省時期とした）

在住の親戚はいないが定期的に集落に帰るS氏（知之浦）

集落の地理的特徴、集落資源や不安について把握するための現地調査及び自治体・区長へ聞き取り調査を実施した。



・集会所の利用状況や高齢者の寄合い（WS）への送迎の必要性を把握



・よそ者の視点から、集落資源を評価する。（瀧春山で20年続いている無人販売所）

#### 結果

他出者の動向を把握するため、お盆の時期（瀬戸内町は旧盆である9月）に訪問調査を（アンケート）行を行うことにより、他出者の帰省動向や「集落元気づくり」の担い手（特に他出団体）を把握出来た。

全世帯・全住民を対象とした他、他出された家族の他出先住所も教えていただき、他出者アンケート（訪問及び郵送）が実施できた。

#### 【代表的な寄合い（WS）の感想】

- ・現状と課題の分析をきっかけに、住民自らが日頃認識していない居住地について再考できた。（瀧春山 40才男性）
- ・他出者が集落のことで心配していることをうれしく思えた。（瀧春山 60代男性）

#### 結果

寄合い（WS）を開催する準備として、送迎の必要性や主な交通手段を把握し、寄合いへの参加者を確保した。

外部者（よそ者）から見た魅力的な資源や集落生活を見た上での不安を調査し、伝えることで、集落住民の資源の再認識につながった。

集落の家屋の配置が密集型か散居型か把握できたほか、集落で定期的に行われている寄合いの頻度が確認できた。

#### 【代表的な寄合い（WS）の感想】

- ・足下の資源等再確認できた。（瀧春山 60代男性）

#### 課題等

世帯・個人の詳細な実態調査には1世帯1時間～2時間の時間を要するため、設問の絞り込みが必要である。  
個人情報に係わる住所等を把握するため、住民に不信感をもたれる。（地元自治体・区長の協力が不可欠）

## 2 「集落元気づくり」のための寄合い

### 【第0段階】事前準備（参加の場の創出）（その2）

**集落支援団体基礎調査及び意向把握**  
集落への支援主体となることが想定される他出者団体、地元自治体、周辺集落のキーマンを把握する。



他出者の親睦会に対し、寄合いとは別に会合を開き、「集落元気づくり」への支援意向を把握した。(知之浦集落、阿多地集落)

周辺集落と連携した取組実態を把握する。  
(集落行事が既に統合されて実施されている場合もあるため)



・運動会は3集落(小学校区)が既に合同で開催している。但しどの集落もほとんどが他出者が参加(阿多地集落)



・寄合いにおいて周辺集落(三浦)代表者も参加することで、お互いの行事情報を共有化

### 結果

集落居住者以外にも、定期的に集落を訪れ、集落維持に係わる取組を行っている親睦会の活動実態(年一度の親睦会を開催等)を詳細に把握できたほか、親睦会に「集落元気づくり」のための寄合いへ参加していただいた。

#### 【代表的な寄合い(WS)の感想】

・集落維持に関わる作業を古仁屋の郷友会(他出者の親睦会)と一緒にやれるのではないかと思った。(知之浦 他出者)

### 結果

周辺集落の代表者にとっても同様な悩みを感じていることが多いため、寄合いへの参加を通じ、その悩みを共有し、お互いの連携が深まる可能性が生じた。

#### 【代表的な寄合い(WS)の感想】

・三浦(周辺集落)から来たのですが、参加者の意見を聞きながら、それに対し具体的な話を進めていくのが良いと思いました。(知之浦 周辺集落男性)

### 課題等

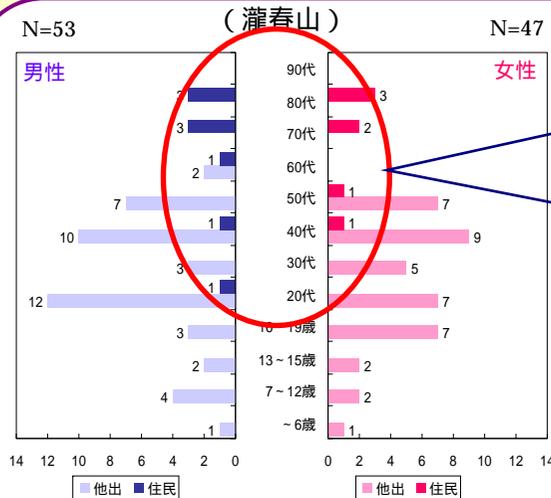
他出者の他出先や周辺集落においても各種行事が行われており、これらの行事日程・内容の重複は避ける。「集落元気づくり」を実施する上で、支援が可能な外部支援者誰なのかを見極める必要がある(キーマンの発掘)どのような支援が可能なのかを寄合いを通じてお互いが確認する必要がある。

## 2 「集落元気づくり」のための寄合い

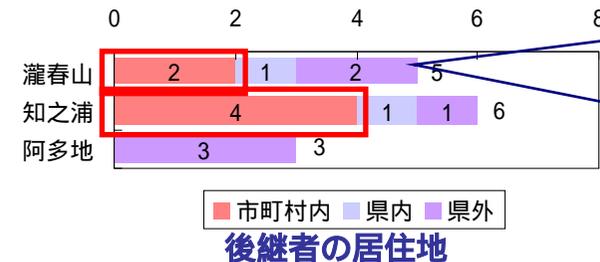
### 【第0段階】事前準備（参加の場の創出）（その3）

#### 全世帯・住民及び他出者アンケート調査

統計には表れない集落の世代構成(他出者含む)や他出の実態、「集落元気づくり」への取組意欲を把握。



住民-他出者の人口ピラミッドの作成により集落の高齢化と他出の実態を実感する。

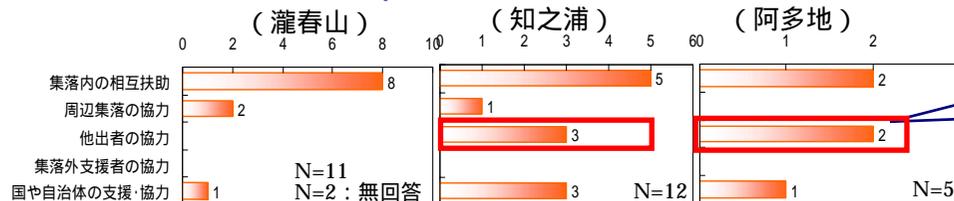


集落支援が行える他出者が近くに居住していることは重要

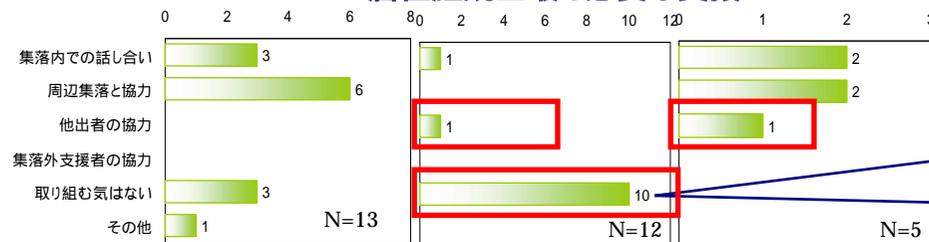


居住継続意志はいずれの集落も高い

#### 他出者も含めた人口構成(瀧春山集落)



居住継続において、集落内の相互扶助が最も重要である一方で、離島の集落では他出者への協力要望も高い



しかし、「集落元気づくり」への取組については、自集落内あるいは周辺集落との協力が多く、遠慮からか、他出者への期待は低い。また、取り組む気がないと住民の大半が回答した集落もあった。

## 2 「集落元気づくり」のための寄合い

### 【第1段階】気付きの誘発（第1回寄合い）（その1）

#### 話し合いの方法

発言のしやすさに留意し、地元自治体、周辺集落代表者、他出者にも話し合いに参加していただいた。



・集落出身者(他出者)で自治体に勤務されている方や自治体の集落担当部局の方にも参加していただき、持続的な取組へのつながる配慮を行った。  
写真 町職員兼他出者のI氏(阿多地)

高齢者の発言を引き出すため、昔の思い出話から集落資源を導き出した。



・昔行っていた春祭り、農業の結いバレ、キビナゴの追い込み漁など、集落総出で行っていたことは何かあるのか？また遠かった学校への通学の思い出について語り合っていた。写真 昔の写真も使った思い出に話は盛り上がる(阿多地)

長時間の寄り合いにおいて高齢者の方も話し合いに参加できるような配慮を行った(椅子の手配、代筆者の手配)



・寄り合い参加の高齢者の方には椅子を手配するほか、サポート要員が個別に意見を把握した(知之浦集落)

#### 結果

「集落元気づくり」への取組において、他出者への期待が高まった。また、他出者も集落の支援要望を把握できた。自由に話し合いができる環境を整えたことにより、自由闊達な議論がなされた。集落が元気であった頃の行事等を回顧していただくことで、集落の伝統行事や習慣が若年世帯へも伝えられた。

#### 【代表的な寄合い(WS)の感想】

- ・歳を取った私でも良くわかりやすかったので、若返りました(阿多地集落 80才女性)
- ・高齢者集落を元気にしていこうとする取組がすごくわかりやすく、感動すら感じた(知之浦集落 他出者男性)
- ・普段聞けなかった集落の人の意見や、自分の知らない昔の出来事が確認された。(阿多地集落 50代男性)
- ・全員そろって話し合いが出来たことがうれしかった。(知之浦 80代男性)
- ・自らの集落の良さや課題を議論していく中で、高齢化は進んでいるが、住民のパワーはまだあるように感じた。昔話をきっかけに高齢者が生き生きとしているように感じた。

#### 課題等

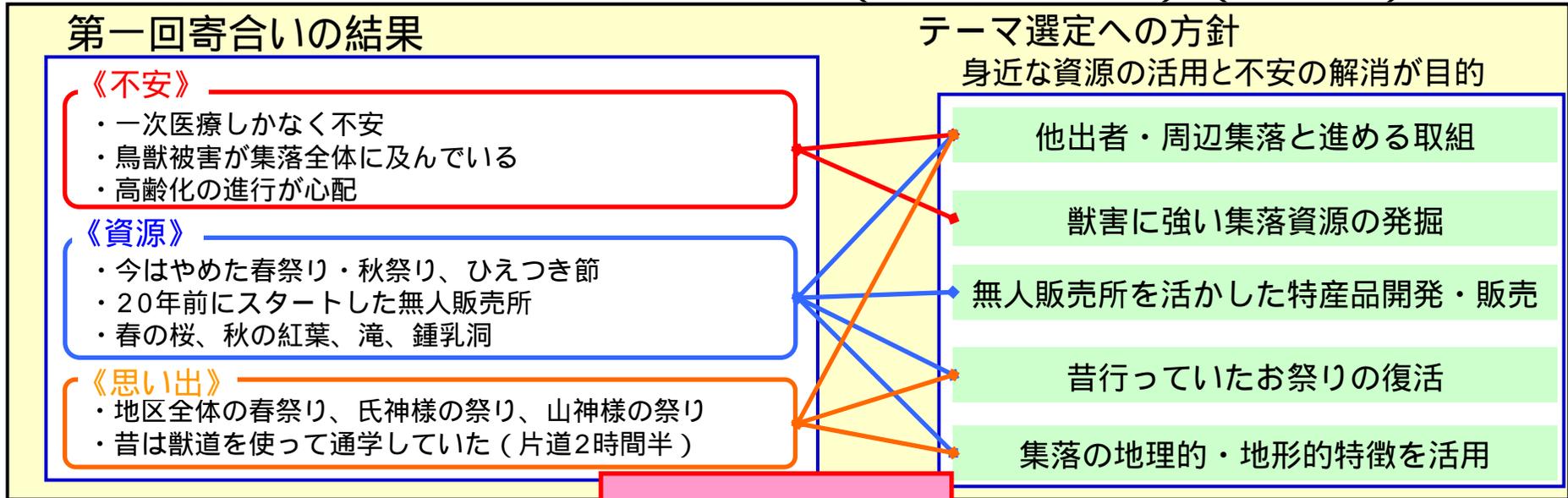
サポートなしでは話し合いが困難なケースも見受けられたため、それらサポートのあり方についても配慮が必要である。

#### 【代表的な寄合い(WS)の感想】

- ・耳が不自由ですが、参加させてもらっただけでもありがたいと思います。(阿多地集落 80才女性)
- ・もう少しゆっくり話した方が良い(知之浦 他出者)

## 2 「集落元気づくり」のための寄合い(瀧春山)

### 【第2段階】「集落元気づくり」の方向性(第2回寄合い)(その1)



20年続く無人販売所の活用



支援者との協働的取組が可能か？

### テーマ : 昔行っていた春祭り、秋祭りの復活

【背景】以前は集落各世帯が持ち回りで的射を行うなど、祭は集落の大人も子供も楽しめる行事であった。また、瀧春山集落は芸達者な人が多く、即興で歌や踊りに興じるなど、祭を盛りあげていた。しかし、6年前から、集落では行事が行われなくなり、後継者世代も近隣の集落に移り住むなど、祭の継承が困難な状況になっている。ひえつき節、もぐら打ちなど、昔から行われている行事をもう一度できないか？

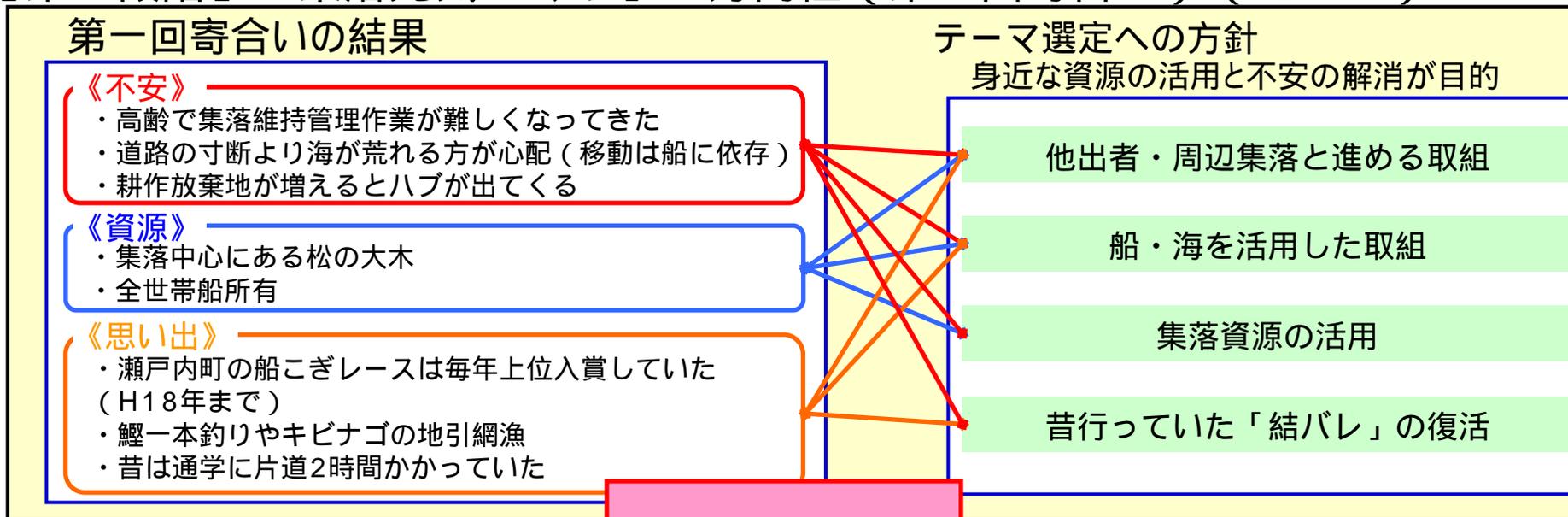
### テーマ : 無人販売所を活用と地域特産品づくり

【背景】瀧春山集落には20年も続いた無人販売所があり、家庭で生産される野菜や山菜を直接あるいは加工して販売されている。また、集落の資源として、山林、清流を有しており、この地形的な特徴から新たな山の資源を発掘・販売することも可能ではないか？

最近では、周辺集落の女性が集まりパン作りを行うなどの活動も行われており、新たな加入者が加わる可能性もある。

## 2 「集落元気づくり」のための寄合い(知之浦)

### 【第2段階】「集落元気づくり」の方向性(第2回寄合い)(その1)



集落中心にある集会所を  
交流施設として活用



海と船を活用した取組の可能性

### テーマ : 海を活かしたイベントの復活(イベントによる他出者や周辺集落連携)

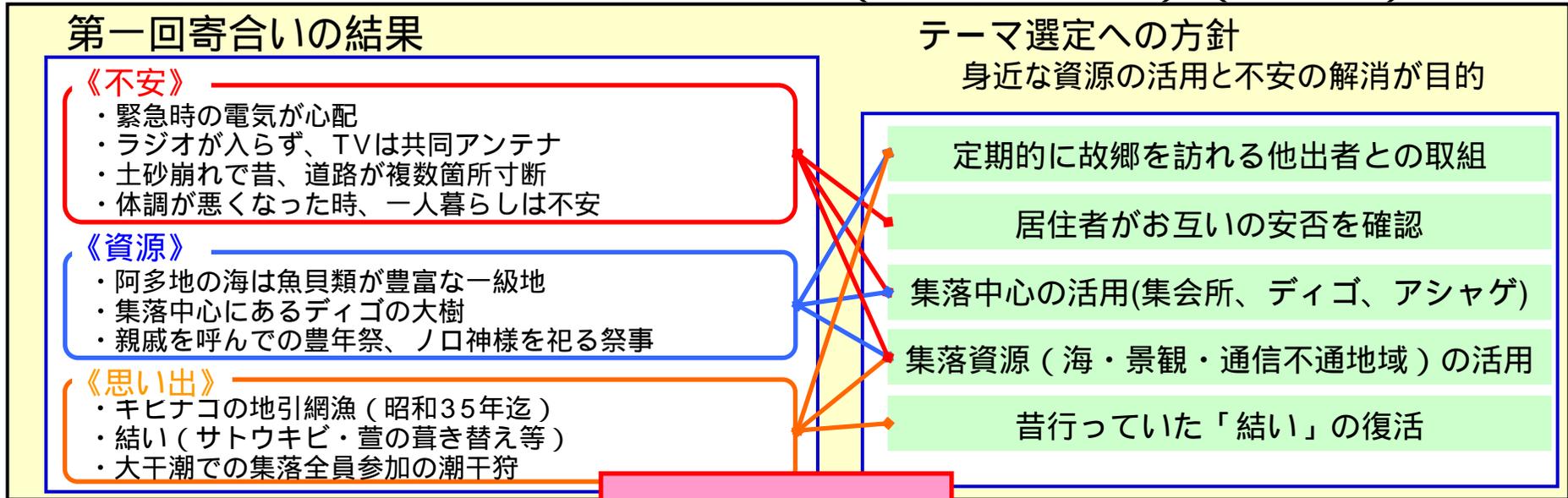
【背景】以前は集落総出で囲い込み漁を行うなど、結いバレの精神での協働作業が行われていた。しかしキビナゴが減り、他出者が増えるに従い、集落の協働的な取組は徐々に行われなくなった。知之浦は昔より、陸の交通より海の交通が便利であり、集落全世帯が船を所有するなどの特徴を持っている平成18年までは、他出者と住民が協働で瀬戸内町の船こぎレースに参加し、上位入賞を果たしていたが、現在は参加していない。

### テーマ : 他出者支援による集落維持活動

【背景】知之浦集落では高齢化が進んでおり、集落道路の草払いや河川清掃が困難な状況となっている。また、不在地主が増え、耕作放棄地が増えたことで、ハブが発生する等問題が生じている。このことから、定期的な集落維持活動を他出者・周辺集落と一緒に進められないだろうか？

## 2 「集落元気づくり」のための寄合い(阿多地)

### 【第2段階】「集落元気づくり」の方向性(第2回寄合い)(その1)



集落中心にあるアシャゲとディゴの大木(空間活用)



阿多地の海は加計呂麻でも有数の美しさを誇る

### テーマ : 阿多地の海・海浜を活かした短期滞在プログラム

【背景】以前は阿多地の海は遠浅で、アワビ、サザエやムール貝等の貝類が豊富に取れていた。しかしながら、現在海に入る人はおらず、集落と海とのつながりはなくなりつつある。ただ、夏になると他出した世帯が、集落を訪れ、集会所や空き家に滞在し、海水浴を楽しんでいる。そこで、加計呂麻で一番美しいと言われるこの海を利用した取組を考える。

### テーマ : 阿多地の人が集まりたくなる場所の整備

【背景】阿多地集落の中心にはアシャゲや大きなディゴの木があり、集落のシンボルとなっている。この場所にはバス停があり、移動販売車も止まり、人々が自然に訪れる場所となっている。集落の高齢化が進み、一人暮らしが増え、生活における不安が増えている。そこで、集落の中心を活用して、生活の中で集落中心を訪れ、滞在し、お互いの安否が確認できる仕組み(整備)ができないだろうか？

## 2 「集落元気づくり」のための寄合い

### 【第2段階】「集落元気づくり」の方向性（第2回寄合い）（その2）

#### 先行事例の紹介による情報の提供

話し合いの流れの中で必要に応じて先行事例を紹介し、新たなアイデア(気づき)を提供。

#### 瀧春山 同じ問題を持っている集落から学ぶ



鳥獣被害に強いやぶ椿を植え、その実から椿油を作っている事例を紹介。椿の花は長いので養蜂にも最適。

やぶ椿が6000本自生する宗像市地島の事例紹介(瀧春山)

#### 知之浦 隣の集落でやっていることを聞く



集落内清掃活動において、他出者の支援を受けている周辺の三浦集落の事例(呼びかけ、受け入れ方法)を聞く。

清掃場所、輸送手段、もてなし方などを説明する三浦集落のH氏(知之浦)

#### 阿多地 昔を回顧することでの気づき



集落行事、夕涼み等、集落内の人が顔を良く合わせていた昔を回顧することで、今何が出来るのかを考える。

楽しかった集落の思い出について話す他出者のK氏(阿多地)

#### 結果

話し合いの中で閉塞感が始まった段階で、テーマに応じた取組事例を紹介し、具体的な取組イメージを共有や新たな気づきを促すことで、取組の具体性や取組意欲が向上した。

#### 【代表的な感想】

- ・これからどうするものかと思うことが多々ありましたが、道筋・明かりを見つけた気持ちで嬉しく思いました。(瀧春山 70代女性)
- ・色々とお聞きして参考になりました。これからもこういった寄合いがあると良いです。(阿多地 90代女性)

全く異なる場所の先行事例の提示のみならず、隣村や隣の集落で身近で行われている事例の紹介でも、効果が見られた。また、昔の回顧により、参加者の思いが共有化され、取組意欲の向上につながったケースも見られた。

#### 課題等

先行事例を紹介しても集落条件が異なる場合においては、効果が無いため、その選定には見極め(集落条件、担い手の状況、活用している資源)が必要。

## 2 「集落元気づくり」のための寄合い

### 【第2段階】企画されたプロジェクト（瀧春山集落）

#### テーマ「的の狙いは人のつながり」

##### ～春祭りの復活～

祭の復活を通じて周辺集落と連携し、地域全体の活性化につなげる

- ・周辺集落の集会所持ち回りでの祭開催
- ・尾八重区全体での「もぐら打ち」の開催



#### 結果

昔元気な時代に行っていたイベントを復活させることで、集落全員の元気や意欲につながる

##### 【代表的な感想】「的射」

- ・伝統芸能は、集落の元気のもとであり、話がまとまりやすいと思います。祭りが復活すれば、昔を思い出して準備します。(40代男性)

#### 課題等

周辺集落との祭の共同開催において、話し合いの場をどのように持てるかが今後の課題。

#### テーマ「瀧のしずくで集落づくり」

##### ～無人販売所の活用～

無人販売所を活用し、新たな集落特産品を開発する

- ・やぶ椿の植栽
- ・椿の実による椿油の生産
- ・椿の花による養蜂
- ・椿油のカスの肥料化



#### 結果

身近な資源の活用を皆で考えることで、新たな取組の実現性を語る事ができる。

##### 【代表的な感想】「椿油加工」

- ・加工、販売を通じて他出者や地区外の人との交流が出来るので楽しみです。植え付けや管理に取り組みたいと思います。(60代男性)

#### 課題等

個々人で椿を植栽するのではなく、集落の入り口等の共有地において、皆で話し合い、集落行事として取り組めるかが課題

## 2 「集落元気づくり」のための寄合い

### 【第2段階】企画されたプロジェクト（知之浦集落）

#### 「みんなの応援でこぎつづけよう知之浦号」

##### ～住民・他出者による船こぎレースへの参加～

##### 船こぎレースで常勝だった「チーム知之浦」の復活

- ・知之浦として「みなと祭」の船こぎレースに参加する。集落前の海で船こぎの練習
- ・集落全員で応援に行く
- ・他出者と住民が定期的に船こぎレースの練習を行う。



みなと祭の船こぎレースに参加する

#### 結果

昔元気な時代に行っていたイベントへの参加を通じて、集落全員の元気や意欲につながる

##### 【代表的な感想】「船こぎレースへの参加」

- ・出来るだけ多くのイベント等に時間の許す限り参加したいと思います。(他出者男性)
- ・応援する人も船をこぐ人も、知之浦集落という船を前に進めるために協力していく。(他出者男性)

#### 課題等

船のこぎ手の多くが他出者のため、他出者主導での活動をうまく集落住民の意欲へと結びつけられるかが課題。

#### 「楽しみながら、子どもも一緒にお手伝い」

##### ～知之浦・愛着づくりへ～

##### 集落維持活動への他出者の参加と集落のシンボルであった松山への植樹

- ・集落の(河川)清掃へ他出団体が協力
- ・清掃と同時に昔やっていた潮干狩りの復活
- ・集落のシンボルである松山の植栽



集落のシンボルである松が枯れた



新しく植えるのはガジュマルか？デゴか？なかなか決まらない(写真はデゴの大木)

#### 結果

集落住民と他出者双方が共通で認識している集落のシンボルの喪失への不安に対し、その解決に向けた話し合いが出来た。

##### 【代表的な感想】「木の植樹」

- ・松はいつまでもつか分からないので、すぐにでも何かしたい。(80代男性)
- ・今まで集落のシンボルだった山がはげ山になるのがさびしく、集落のシンボルは気持ちを高める。みんなが良いと思うものを植えたい。(80代男性)
- ・集落のシンボルがあればきれいになれる。(80代女性)

#### 課題等

集落のシンボルの植樹において、今後集落だけでなく他出者団体(子供も含め)にも役割を持たせて行えるかが課題

## 2 「集落元気づくり」のための寄合い

### 【第2段階】企画されたプロジェクト（阿多地集落）

#### 「きゅら浜阿多地楽しみ会」

～海を活かした他出者との交流～

加計呂麻で最も美しいと言われる  
海を活かした集落づくり

- ・他出者への短期滞在宿舎の提供
- ・子供が参加できる潮干狩りの開催
- ・短期滞在者へのもてなし(バーベキュー)



阿多地集落前の海



集会所を活用した短期  
滞在プログラムの考案

#### 結果

身近な資源の活用を皆で考えることで、新たな取組の実現性を語る事ができる。

【代表的な感想】「きゅら浜阿多地楽しみ会」

- ・古仁屋・名瀬から来られる方と会って楽しむために、集会所で皆集まり、うどんや漬物を作って皆様に提供したい。(80代女性)

#### 課題等

まずは古仁屋の他出者との交流において、「集落元気づくり」への取組が持続出来るかが課題。

#### 「内も外も、みんなが顔をあわせるプロジェクト」

～集落内外の人が自然に集まる空間の創出～

日々の生活の中で、お互いの安否が確認できる仕組み作り

- ・定期的な集会所の解放(住民・他出者の交流スペースとして)
- ・夏場の海での夕涼みの実施
- ・将来的には集落中心にある旧集会所での憩いの空間整備



自然と集まりたくなる空間の整備

#### 結果

高齢化に伴う集落の生活不安の解消について、他出者も交えた解決策についての話し合いが出来た。

【代表的な感想】「河川清掃・集落の景観整備等」

- ・若者を集めての草刈りや伐採作業のための連絡と、実際の作業を実施します。(他出者男性)
- ・高齢者ばかりなので、若い人が来られた時に、お茶・漬物を持参します。(90代女性)
- ・集落のシンボルがあればきれいになる。(80代女性)
- ・私にやれることは何でも協力したい。(他出者女性)

#### 課題等

集落を訪れる他出者を、今後気軽もてなし、集落みんなが集まる場を創り出せるかが課題。

## 2 「集落元気づくり」のための寄合い

### 【第3段階】自ら実行する意志（話し合いをリードするキーマン）

#### 区長とキーマンの連携強化と取組意欲

参加者(支援者)が話し合いの中で自分の役割を認識し、取組意欲に結びつくためのグループ分けを行った。

#### 瀧春山 祭を通じて周辺集落との連携強化



祭の開催のため、周辺集落との連携が必要であるため、祭の話し合いには周辺集落の代表が加わった。

周辺4集落で形成する尾八重区の代表のK氏(瀧春山)

#### 知之浦 他出者とイベントへの協働参加



集落で再度船こぎ大会に参加するため、選手として中心的な役割を担っていた他出者団体の参加が必要

郷友会に所属し、集落出身者の若手の中心人物S氏(知之浦)

#### 阿多地 集落への他出者の受け入れ行事開催



集落での協働的維持活動や他出者の帰省受入(短期滞在)のため区長と他出者団体のキーマンの連携が不可欠

他出者団体をまとめ、集落維持活動を行うI氏(阿多地)

### 結果

テーマ別にその中心的な役割を果たす「キーマン」をグループ毎に配置し、その取組意欲を喚起することで、話し合いの実効性が増した。

#### 【代表的な感想】

- ・集落で一番身近な問題で良かった。集落の将来について皆が心配していることが理解できた(瀧春山 50代男性)
- ・皆さんの意見を聞きながら、直ぐにでも実行に移せそうな話ばかりで参考になり、わかりやすく今後にも1かせそうに思いました。(知之浦 周辺集落男性)

住民と他出者及び周辺集落の話し合いにより、お互いの悩みが共有化され、集落への支援意欲が増した。

#### 【代表的な感想】

- ・今まで集落の要請が無かったが、これからは要請があれば他出者として積極的に支援していきたい。(知之浦 他出者男性)

### 課題等

取組テーマを実現させるためのキーマンの寄合いへの参加が不可欠であるが、都合により参加出来ず、その後の活動の展開において支障を来す場合がある。特に小規模・高齢化集落では、支援者でキーマンになりうる人物の参加が必須である。

## 第2回寄合い開催後の状況

# 1 「集落元気づくり」に向けた寄合い開催後の状況

## 寄合い後のフォローアップ

### 区長へのその後の取組状況の確認

寄合い開催後において、立案された取組実施に向けた取組への「きっかけ」がつかめているかを確認した。

#### 瀧春山 支援者との話合いのきっかけがつかめず



寄合いにて、新たな気づきもあり、取組意欲はわいた。しかしながら、今後、周辺集落の支援が必要であるが、話合いの場のきっかけがつかめていない

特に椿の植栽に意欲的なK氏  
(瀧春山区長)

#### 知之浦 周辺集落との連携に向けた話合い開始



他出者とは船こぎレースへの参加イベントで連携し、集落維持活動は周辺集落と交流を深めていく予定。集落の景観づくり(植栽)は他出者からも意見を聞きたい

周辺集落との集落維持活動共催を考えるT氏(知之浦区長)

#### 阿多地 郷友会(他出者の会)には参加予定



今回の寄合いを契機に集落(区長)と郷友会の連携が強化され、相談しやすくなった。

集会所の短期滞在利用を積極的に進めたいI氏(阿多地区長)

### 結果(瀧春山集落)

関係者(特に後継者世帯が暮らす横野集落)が集まり、取組の方向性の確認、役割分担を話し合い、定期的な寄合い開催に向けたきっかけを作る必要がある。

#### 【区長コメント】

- ・6年も集落単独で寄合いを開催していないため、今後いつできるかが、不明
- ・瀧春山単独でのプロジェクト実施は困難なため、支援必要
- ・もう一度お互いの役割を認識する寄合いを開催して欲しい

### 結果(知之浦集落)

3月の郷友会新年会に参加することや三浦集落とお互いの集落行事への参加を通じ、プロジェクトを推進していく。まずは、船こぎレースに参加出来るかどうか見守る。

#### 【区長コメント】

- ・隣の三浦集落とは寄合い開催後に協働的取組に関する話し合いを進めている。
- ・寄合いがきっかけとなり、今年3月の郷友会新年会には私も初めて参加する予定。

### 結果(阿多地集落)

3月の郷友会新年会へ参加し、プロジェクトの具体化を図り、住民・他出者の役割分担を明確にする。まずは集落河川の維持活動の協働開催に向け、準備が出来るかどうか見守る。

#### 【区長コメント】

- ・せっかく今回の寄り合いで仲良くなった郷友会(他出団体)との連携を深めていきたい。
- ・3月に開催される郷友会の新年会に参加し、話を具体化させたい。